

第3回 洛西ニュータウンアクションプログラム検討会 会議録

開催日時	平成28年11月2日（水）午前10時～12時
開催場所	ホテル京都エミナース3階平安の間
出席者	藤本会長，安枝会長職務代理者，井上委員，平尾委員，藤本委員，平井委員，永谷委員，上野委員，竹原委員，香水委員，村下委員，齋藤委員，坂本委員（代理：甲賀氏），清兼委員，山下委員，新治委員，奥野委員，荒木委員，西澤委員，竹村委員，菊池委員，善積委員，旗委員，赤井委員，江草委員，吉岡委員
欠席者	高田委員，片岡委員，尾田委員，中川委員，小山委員，ペレイラ委員，今西委員，近藤委員
事務局職員	京都市 都市計画局都市企画部都市総務課ニュータウン企画調整担当課長 菱田 栄造 同課企画調整係長 平岡 雅基 西京区洛西担当区長 平井 義也 同区地域力推進室総務・防災課長 平井 淳史 株式会社地域計画建築研究所 嶋崎 雅嘉 石井 努
公開・非公開	公開
傍聴者	11名
報道関係	1名
議題(案件)	○ 開会 ○ 議題 - これまでの検討状況報告 ・第2回検討会の内容確認 ・「洛西ニュータウンアクションプログラムまちづくりトーク」の開催結果報告 ・ワーキンググループ（WG）の開催・検討の状況報告 - 洛西ニュータウンアクションプログラム案検討資料について - 洛西ニュータウンアクションプログラムの策定に向けた，住民の方々への周知等について - 今後のスケジュール ○ 閉会

資	料	資料1-1	第2回洛西ニュータウンアクションプログラム検討会 会議録
		資料1-2	「洛西ニュータウンアクションプログラムまちづくりトーク」 開催結果報告資料
		資料1-3	各ワーキンググループ（WG）の開催・検討状況報告資料
		資料2	洛西ニュータウンアクションプログラム案検討資料について
		資料3	「洛西ニュータウンアクションプログラムの策定に向けて」 （パンフレット）
		資料4	今後のスケジュール（予定）
		参考資料1	洛西ニュータウンアクションプログラム検討会 委員名簿
		参考資料2	洛西ニュータウンまちづくり通信第2号，第3号

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
藤本会長	■ 開会 ○本日は、御多忙のところをお集まりいただき、感謝申し上げます。 ○ただいまから第3回洛西ニュータウンアクションプログラム検討会を開会する。
藤本会長	■ 新委員紹介 ○ホテル京都エミナース総支配人の交代に伴い、検討会委員が鹿野幸次氏から清兼拓也氏に交代していることを報告する。
清兼委員	◆ 清兼拓也氏あいさつ ○すでに洛西ニュータウンの再生、活性化に向けた議論が進んでいるとお聞きしている。微力ながら、私並びに京都エミナースも貢献していきたい。今後とも、よろしくお願いしたい。
事務局	◆ 資料確認 ○（資料確認） ○（議題について説明）
藤本会長	■ 議事 1 これまでの検討状況報告 ○本検討会も後半に入り、まとめの段階に入る。説明にあったように、アクションプログラム案検討資料についての議題が本日のメインとなる。こちらに時間が取れるように進めていきたいので、よろしくお願いします。 ○「第2回検討会の内容確認」「洛西ニュータウンアクションプログラムまちづくりトークの開催結果報告」「ワーキンググループ（WG）の開催・検討の状況報告」について、事務局から報告していただく。
事務局	○（資料1-1, 1-2, 1-3について説明）
藤本会長	○御意見、御質問があれば伺いたい。
齋藤委員	○洛西ニュータウンまちづくりビジョンをつくり、その中で4つの戦略が掲げられていたが、その戦略についてのこれまでの取組状況を踏まえた上で、検討を進められるよう、会長に要望書を出した。事務局から回答があったが、

	洛西のまちで誰もが快適に暮らせる環境づくりの取組，身近な地域拠点と交通環境づくりにおいて，きちんとした総括がされていないと感じる。サブセンターの取組については，どうなっているのか。 ○まちづくりビジョンの戦略に関して，生活機能向上部会が取り組んでいたが途中で途絶えたのではないか。これについては，どうなっているのか。
藤本会長	○サブセンターの取組と交通の問題を，どこで，どのように引き継いで検討されているのか，事務局に伺いたい。
事務局	○まちづくりビジョンの戦略４で，洛西のまちで誰もが快適に暮らせる環境づくりの取組，身近な地域拠点と交通環境づくりが掲げられており，各サブセンターの会館利用の促進や，サブセンターのコミュニティ機能の向上の項目が挙げられている。御質問は，これらについての平成１８年以降の取組に關することと理解する。 ○自治連合会等に対して，会館の半額利用割引券交付，会館ロビーの余裕スペースをコミュニティースペースとして無償提供，自治連合会が主催する地域行事の際に会館を１日無料開放するなど，可能な限りの取組は行ってきた。さらにサブセンター自体の活性化に向けた取組については，議題２で説明したい。 ○新しい公共交通システムの検討については，まちづくりビジョンにも書いてあるので，調整中ではあるが，プログラムの検討資料に入れている。後ほど説明させていただく。
齋藤委員	○きちんと総括した上で新しいものを組み立てるべきである。
藤本会長	○これまでの取組を踏み台にして今後の取組を進めていくべき。 ○御意見，御質問が特にないようであれば，次に進みたい。 （一同，意見等なし）
藤本会長	２ 洛西ニュータウンアクションプログラム案検討資料について ○「２ 洛西ニュータウンアクションプログラム案検討資料について」を事務局から説明いただく。
事務局	○（資料２をもとに，まちづくりの方向性について説明）

藤本会長	○まちづくりの方向性検討案について皆さんの御意見を伺う。この場でキーワード等の決定には至らないと思うが、ぜひ入れてほしいキーワードや方向性等について伺いたい。
香水委員	○例1の「ニューエスタウン」というのは、どういうまちのことか。
事務局	○「ニューエスト」は「最新（newest）」という意味合いで例示している。
香水委員	○「緑とゆとりを守り、各世代が支えあう」というのはニュータウンに住んでいる人たちのビジョンであったと感じている。10年経って、様々な問題が起こり、まちの新陳代謝が必要となって、外からの新しい視点をどのように入れるかということをアクションプログラムで議論している。 ○ベッドタウンということでスタートしたまちだが、今後のまちづくりにおいては、働く場所などの多様な機能と、外の人たちによる新陳代謝を促すための仕組みが必要である。そういう視点は持ってほしい。
藤本会長	○ベッドタウンから機能も変わってきて、外からのインカムも含めた交流のあるまちというキーワードを入れた方がよいという意見であった。 ○ほかに意見はあるか。
上野委員	○例4で「楽しい！住みたい！HAPPY！洛西ニュータウン！～子どもも大人もお年寄りも、楽しく・安心に暮らせる魅力あるまち～」とあるように、アクション11の「高齢者・障害者に住みやすいまちづくり」にもサブタイトルとして「障害のある方も、ない方も」というような文言を検討していただきたい。障害のある方も暮らしやすいまちは、高齢者にも暮らしやすいと思う。
藤本会長	○高齢者、障害者が住みやすいまちは健常者にも住みやすいまちになる。
事務局	○（資料2をもとに、プログラムテーマ1について説明）
藤本会長	○具体的なテーマについてディスカッションした方もいらっしゃると思うが、御質問、御意見があれば伺う。 （一同、意見等なし）
事務局	○（資料2をもとに、プログラムテーマ2について説明）

藤本会長	○先ほど質問もあったが、非常に重要なテーマである。御意見、御質問を伺う。
齋藤委員	○アクション4のプロジェクト4－1「タウンセンターでの観光拠点機能づくり」は、洛西ニュータウンに暮らす者にとって、どういう位置付けになるか。 ○プロジェクト4－5「洛西ニュータウンにおける新たな公共交通システムの検討」は、もっと重要視してもらいたい。
事務局	○テーマ2は「洛西ニュータウンの魅力充実と交流人口の呼び込み」ということで、対外的にも魅力を発信し、ベッドタウン以外の機能を持たせて洛西に訪れてもらえるようにしたい。 ○西の玄関口ということも視野に入れると、タウンセンターが中心になって、大原野地域とも連携して洛西に来ていただく仕掛けをつくり、若年世代をはじめとした多様な方々の流入を図っていきたい。
齋藤委員	○観光拠点ができることによって、洛西に住む者には何がプラスになるか。
藤本会長	○プラスになることを、しっかり考えながら進めてほしいという御意見だと理解する。
平井洛西担当区長	○参考に、バルイベントの開催について報告したい。10月29日土曜日に、小畑川中央公園で「洛西グラシアス・バル」を開催した。流行しているハロウィーンにちなんだ仮装もして、洛西地域に住む方だけではなく、多くの方でにぎわった。 ○地域の人だけでバルイベントができるかと考えたときに、やはり外からも来ていただかないと夜のにぎわいは創出できないということで、「観光」の視点が必要になるかと思うが、地域以外からも多くの人に来ていただき、洛西を見て住みたいと思っていただけるとよいと考えた。
藤本会長	○「観光」とくれば、地元の方にどのようなメリットがあるかと捉えがちになるが、将来的な住み手を増やす役割、交流という意味合いがあるということである。 ○交通についても、指摘があった。
事務局	○交通の利便性向上という視点も大事にしてほしいという御指摘であったと思う。調整中の部分もあるが、アクションプログラムに明記していく方向で

	調整している。
奥野委員	○公共交通について検討する主体はどこか。道路管理者、交通管理者（警察）、運行事業者、利用者、周辺住民等いろいろな主体がある。誰が調整していくのかが気になる。公共交通ネットワーク等の組織で行っていくのか。 ○観光との関連で、大原野インターチェンジからパーク・アンド・ライドで京都市内への観光ということもある。ニュータウンの中に駐車場を設けることは難しいが、乗り継ぎ拠点と公共交通へのアクセス整備という視点も必要だと考える。
藤本会長	○洛西ニュータウンにおける新たな公共交通システムの検討について、具体的な担い手は、どのように検討されているか、また、西の玄関口という言葉があったが、パーク・アンド・ライドについて検討されているかという質問に、事務局から回答を求める。
事務局	○交通利便性の向上については、公共交通ネットワーク推進会議、洛西地域公共交通利便性向上検討ワーキングを中心に取組を進め、鉄道2社、バス4社、京都市で協議をしている。 ○さらに京都全体のまちの活力を高める公共交通検討会議も設置し、どのような公共交通システムに取り組めるかという大きな視点で検討されている。それらを総合して、洛西地域の交通利便性向上策が検討されていくものと考えている。 ○パーク・アンド・ライドについては、洛西へ観光に来ていただきたいこともあり、ニュータウン内に駐車場をつくるのは難しいが、サブセンターや市有地等、公共的な場所の利用について検討したい。
奥野委員	○5年ほど前にワーキングに参加して、時刻表を見やすくしたり、鉄道の駅にバスの運行表を貼ったりしたが、それ以降の動きがあまりない。これを契機に新しい公共交通システムの議論を深めていけると考えてよいか。
平井洛西担当区長	○「洛西ワーキング」では、洛西口駅や桂川駅ができたことで、桂駅とのバスの連動について、新たなルートを含めて検討した。民間のバス事業者、京都市の交通局とともに境谷大橋のバス停から取り組んできたが、洛西口駅の高架化事業との連携も新たな洛西ワーキングの取組として考えられるのではないか。

	○交通機能向上については、地元の方にもモビリティーマネジメントに取り組んでいただいております、特西4号系統のバスを平日も運行する取組にも発展している。地域の皆さんと一緒に新たな交通機能の向上を図っていききたい。 ○新たな公共交通システムについては京都市の交通政策と大きく連動する。検討会もあるので、地域の実情を述べていくところからスタートするものと考えている。
藤本会長	○さまざまな取組との連携があり、これをきっかけに新たな一歩が始まるということであった。 ○私は京都市の自転車政策にも関わっている。アシスト付き自転車が高齢者にも普及しており、公共交通に頼るだけではなく、自由に動ける楽しさを生かせるとよいと思う。これから、いろいろな交通手段が発生するであろうことを考えると、ニュータウン内で、自転車の次の新たな乗り物で高齢者も自由に動けるような取組があると面白いのではないか。
永谷委員	○アクション4に、大原野の農業・歴史について取り上げいただいている。平成26年度に、なんやかんや「大原野」推進協議会を立ち上げ、平成27年には大原野地域ブランド戦略を策定するなど、地域活性化について検討を行っている ○洛西・大原野のまちづくりについては、地域で約30名が集まって大原野農産物等直売所運営協議会を立ち上げ、大原野の野菜を、いかに売り出していかということで「マルシェ大原野」を7月2日にオープンした。集客が思うように伸びない中、新聞折り込み等も行い、特にニュータウンの方に来ていただき、大原野の新鮮で高品質な野菜を地域の方に購入していただけるよう取り組んでいる。よろしく願いしたい。 ○竹林公園の周辺が資材置き場で、ダンプの出入りもあり、お客さんが来にくいのではないかという声がある。周辺の適切な管理も活性化には必要ではないか。
事務局	○プロジェクト5-3に「放置竹林や資材置き場への改善指導」と記載している。広域的に連携を図り、指導・改善を目指したい。
井上委員	○過去2回の検討会には参加できなかったが、よろしく願いしたい。 ○アクションプログラム案検討資料から、まずは京都市が頑張るということ

	なんだな、と見てとれた。そして、京都市も支援・協力しながら、URをはじめとする企業の方たちや、今日御参加の、地域で一生懸命活動されている団体の方々が頑張っていくということが書かれているもの、と理解した。 結局、地域における限られたメンバーが、これまで頑張ってきたが、もっと頑張れということになるのが心配である。 ○本当に頑張らなければいけないのは地域居住者の方たちだが、洛西ニュータウンでは、その割合が少ないのではないか。全ての地域で住民全員が積極的になることはあり得ないが、京都市の伝統的な市街地のように、地域に対して貢献しようと頑張る人たちの割合を増やす必要がある。 ○アクション5に公園のことがある。たくさん公園があるのは市街地から見ると、うらやましいことで、洛西ニュータウンの魅力の一つであるが、よその学区の公園で遊んでいる子どもを居住者や子ども同士で追い出すことがあると聞いた。それぞれ魅力がある公園を、学区内でしか使えないのは不便である。 ○そういった限定が子どもたちにとってよいことなのか、洛西ニュータウンとしてはどうなのか、ぜひ地域の方たちで話し合っていたきたい。町内会に入っている率は低いが、町内会等、地域で問題提起して、地域の人が自分たちも参加して意見を言わないといけないという環境づくりが必要である。
藤本会長	○全体については、また後ほど意見を伺うが、公園についての考えはどうか。
平井委員	○われわれ住民としては、学区で区別するようなことはない。身近な小さい公園では、御指摘のようなこともあるかもしれないが、あまり聞いたことがない。境谷公園など、野球ができる公園で、場所を取り合いになるようなことはあると聞く。
事務局	○（資料2をもとに、プログラムテーマ3について説明）
藤本会長	○非常に重要な「生活・福祉など居住魅力を高めるサービス・機能の向上」というテーマである。御意見、御質問を伺う。
奥野委員	○阪急電鉄が西院駅の改良工事を行っており、駅ビルを建て替えて子育て支援サービスの施設を入れる計画もある。最近、企業内保育の需要が高まり、複数企業で一つの保育園を運営しているところもある。生産年齢人口の減少に

	より、今後各所で人手不足となる可能性があるが、その仕掛けとして、企業が集まって育児サービスを設けることも増えると思われる。 ○洛西ニュータウンに住めば子育てサービスを受けられる、あるいは河原町など京都中心部に勤めるなら洛西ニュータウンに住むとよいと打ち出せるような視点も検討に入れていただきたい。
藤本会長	○保育所とまではいかなくとも、身近で働いたり、コミュニティビジネスを始めたりするために預けられるところがあるとよい。
事務局	○（資料2をもとに、プログラムテーマ4について説明）
藤本会長	○情報の発信について、御意見等あるか。
菊池委員	○イメージづくりやブランド戦略が大切であり、これまでの取組や、さまざまな地域資源を連携させ、コンセプト化を図ることが重要である。地域ブランドは企業ブランドとは違い、難しいところはあるが応用はできると考える。 ○例えば、サントリーは「水と生きる」という非常にシンプルなコンセプトで企業理念を表している。洛西にもキャッチフレーズはさまざまあるが、統一的なロゴや、コンセプトを象徴するキャラクターをつくることで、それぞれで情報発信をする中でも共通の軸ができるのではないか。 ○アクション14に関して、それぞれの主体で情報発信をしているが、リンクやバナーを貼ることでネットワーク化することを意識的に言い、相乗効果を高めた方がよいのではないか。
藤本会長	○洛西ニュータウンを象徴するキーワードやビジュアルコミュニケーションづくり、発信媒体のネットワーク化について意見をいただいた。参考にした。
齋藤委員	○「まちボタン」というニュータウンの情報発信サイトがあるが更新されていない。適切な管理が必要であり、古い情報が残っているのはよくない。場合によっては運営を廃止することも必要ではないか。
藤本会長	○事務局では把握しているのか。
事務局	○情報発信の取組を進めていく中で、あり方について整理したい。

事務局	○（資料２をもとに、推進体制について説明）
藤本会長	○推進体制を含め、全体についての意見を伺いたい。地域住民が頑張らなければならないという話があったが、地域の代表の連合会長の御意見はどうか。
藤本委員	○住民の意見を反映する場がないと感じている。住宅や交通の問題について事業者間で検討されていると思うが、住民の意見や要望が入る余地がない。立派な建物はできるが、こうあればよいという理想ばかりで、利用者の思いが抜けている印象がある。
藤本会長	○さまざまなワーキングも重ねており、いままでとは違って住民の意見も反映される体制はできつつあると思うが、事務局としてはどうか。
事務局	○まちづくり通信等、全戸回覧で取組の紹介や、意見があれば事務局までという案内をしている。８月２８日には、まちづくりトークを開催して住民の意見をいただく場とした。議題３で、今回の取組の現段階でのまとめを住民の方々にお示しする旨説明するが、併せて住民の方々の意見も提出いただけるような設えにしている。
平尾委員	○各学区に大きな公園があるが、木をたくさん植えてあるが手が入っておらず、うっそうとしていて、砂場や芝生はイヌやネコのふん尿で汚れているので、子どもを遊ばせたくないと感じる。遊具は滑り台、ぶらんこ、ジャングルジムぐらいしかない。公園を有効に使うためには、環境を整えるべきである。
平井委員	○洛西は非常に緑豊かで快適な遊び空間も多いが、子どもがなかなか遊ばない。もっと遊んでほしい。大蛇ヶ池公園に毎朝行くが、人がほとんどいない。もし私が何かのことで万一倒れたら１時間以上見つけてもらえないのではないかと不安を感じるぐらいである。 ○洛西ニュータウンには大きな面積を持った小中学校があるが、竹の里小学校の児童は現在１７０名ほどしかおらず、一学年二クラスになっていない。これから先その問題も議論の中には入れていかねばならないのではないかと。学校統合とかいうこともあるだろうが、そういうことも含めた形でこれから議論が出てくるのではないかと考える。

藤本会長	○住民が増え、子どもたちも増えていくと将来の夢が広がる。
齋藤委員	○推進体制で「洛西ニュータウンアクションプログラムの進行管理を行う協議会の設立」とあるが、これまで四つの自治連合会の会長が責任を持ってまちづくりを進行してきた。洛西ニュータウン創生推進委員会が洛西ニュータウン創生推進連絡会に姿を変えたが、新創生推進委員会といった組織についても説明を受けたこともある。これらの組織と推進体制はどういった関係になるのか。
平井洛西担当区長	○これからの課題については、あらためて皆さんと一緒に考えていきたい。推進体制では、まちづくり会社にまで言及している。自治連合会を中心とした素晴らしい活動の一方、子育てなどで個別の活動もある。そういったことや創生推進連絡会の各チームが行う取組も含め、自治連合会としての活動とは違うかたちで、まちづくり会社として取りまとめができるかというのではないかな。そのスタイルについては、今後研究を進め、提示できるようにしたい。
齋藤委員	○推進体制についても検討が進められると思うが、井上委員からもあったように、多くの住民に認識してもらう必要がある。自治連合会長は、各連合会で自治会長に説明し、各自治会長が住民に説明するようにしてほしい。住民から積み上げていくことも必要である。
事務局	3 洛西ニュータウンアクションプログラムの策定に向けた、住民の方々への周知等について ○（資料3について説明）
藤本会長	○事務局の説明に、本日いただいた御意見を加味した形で住民の方々に示すということである。
香水委員	○今日説明いただいた67のプロジェクトについて、全項目を本検討会で了承されたという前提で住民の意見聴取の案内をするのか。
事務局	○検討資料にはアイデアレベルのものも含まれている。ワーキングからのアイデアも残したかたちで、こういうことを考えているという提示の仕方をさせていただくもので、検討会で了承されたという聞き方はしない。

事務局	4 今後のスケジュール ○（資料4について説明）
藤本会長	○1月に案の取りまとめとなるが、それまでに、議題3の周知と同時に行うこととなる御意見聴取も含め、様々な意見をいただくことになると見込まれる。
安枝委員	○最後に、まちづくりの方向性について述べたい。タウンセンターの観光拠点づくりについて質問も出たが、観光よりも拠点づくりが大事だと思う。ニュータウンは働く都市を支える役割を持っていたが、多くの居住者が子育ても終わり、退職された。ベッドタウンの役割に加えて新しい役割を見いださないと、まちとして生き残れない。 ○今後は、大原野や大枝も含め、同じように高齢化が進んで産業が厳しい状況にある地域の拠点として機能することがニュータウンの新しい役割ではないかとワーキングでも議論されている。周りのまちと一緒にになって地域の魅力を高めながらニュータウンの新しい役割を見つけていくことが大切なので、そういうことが方向性の文言に入れればと思う。 ○居住者にとってはどうかというと、ニュータウンでは、それぞれの学区の中で生活や交流が完結しがちである。それは、子育てや仕事に忙しい時期には十分であり、便利なことだが、退職後には学区内だけというのでは物足りない感じがするのではないか。 ○創生推進委員会の取組では、住区、学区を超えた新しい人のつながりや生活の範囲を広げることを目指していたと思う。今後、大原野や大枝とも結び付けば、ニュータウンの外の豊かな自然や歴史も楽しみながら生活するという、新しいニュータウン居住者の生活活動の深まりにもつながる。 ○まちとして連携する意味もあり、居住者にとっては周辺地域での新しい発見や活用につながる。今回のアクションプログラムでは、これまでニュータウンの中で考えていたことを一歩広げることで居住者の生活が豊かになることも目指していると思う。 ○そういった趣旨が分かりやすいように文言の整理を行い、観光といった細かい言葉が先行しすぎないようにし、なぜ拠点づくりが必要であるかという議論を継続していきたい。 ○住民の意見聴取については、住宅に関しては十分でないかもしれないが、住まいと景観チームの皆さんが、一昨年から専門家を招いて相談会を開催し、そこで積み上げられた意見をベースにしてワーキングの議論をしていただ

	いている。 ○施設のワーキングでは、会館の利用や在り方に関する全戸配布のアンケートを検討している。アンケートをする資金も不足しているので、自治連の方に配布や回収等のお手伝いいただきたいと思うが、アンケートを通じた住民の意見聴取に御協力願いたい。
藤本会長	○ニュータウンが周辺と一緒にすることでニューエスタウンになるのかもしれない。
井上委員	○京都市全体で見ると、市街地は伝統的なまちとして町家を残していく宿命があるが、ゼミで実施したアンケートでは、30、40歳代の主婦層は圧倒的に、町家があるのはいいことだが、自分たちが住みたいのは洋風の便利な家だと答えている。 ○京都市が町家保存を進めるほど、そういう層の受け皿となる地域が必要になる。それは洛西ニュータウンの場所だと思う。様々な機能が混在した開発地に移った人もいると思うが、環境のいい洛西ニュータウンを薦めたい。洛西としても、それを意識してブランド化する必要がある。 ○30、40歳代の洋風の家を求める層の傾向として、自治会活動に縛られたくないという意向もある。自治会加入率を高めようと皆さん苦勞されているが、京都市の各部署にぶら下がる仕事を自治会が引き受けているために自治会活動が大変になっている。 ○市街地での自治会の在り方と、ニュータウン内の自治会の在り方を変え、京都市が自治会に依頼している仕事の一部を、まちづくり会社が引き受けるなどして自治会の負担を減らすことも考えてはどうか。
藤本会長	○最後に一言、事務局をお願いしたい。
事務局	■ 閉会 ○本日は貴重な御意見を多数頂戴し、感謝申し上げます。今後の進め方に反映し、よりよいプログラムとして取りまとめていきたい。今後ともよろしくお願い申し上げます。
藤本会長	○それでは、第3回洛西ニュータウンアクションプログラム検討会を終了させていただきます。

以 上

